

やお・かしわら 常光寺 (じょうこうじ)

常光寺は臨済宗南禅寺金知院末。天平17年(745)行基の創建で聖武天皇の勅願所であった。南北朝の戦乱で消失したが、又五郎大夫藤原盛継が再興した。足利義満が参詣し造営の木材を寄進し「初日山常光寺」の扁額を寄せている。

本尊の延命地蔵は「八尾地蔵」と呼ばれており、日本三地蔵の一つと言われ小野篁(おののたかむら)の自刻と伝えられる。



行基により創建された常光寺

所在地：八尾市本町 5-8-1

最寄駅：近鉄大阪線 八尾駅下車 西へ徒歩約7分

見学：境内自由

TEL：072-922-7749

大坂夏の陣では金地院崇伝の抱え寺として保護され、藤堂高虎はこの寺の廊下で敵の首実検をし、今でも血天井として残されている。寺宝も多く、歴代将軍の朱印状が残っている。毎年8月23日・24日の地蔵盆は名高く、河内音頭による盆踊りは河内風物詩として「日本の音風景100選」に選ばれており、両日は境内いっばいに踊りの輪ができる。また、河内音頭発祥の地と言われており、「河内最古之音頭発祥地」の碑が建立されている。(新田俊明)